

令和6年度教育事業
全国高校生体験活動顕彰制度「地域探究プログラム」
「オリエンテーション合宿 in 能登チャレンジ」

全国高校生体験活動顕彰制度「地域探究プログラム」とは

国立青少年教育振興機構が令和2年度に新設した「全国高校生体験活動顕彰制度『地域探究プログラム』」は、高校生の体験活動を通じた成長を目指し、改訂された学習指導要領のキーワードである「探究」の手法を用いて学習を深める制度である。取組みを段階的に分けており、ステップⅠ「地域探究トライアル」では「探究」の学びと実践を、そしてステップⅡ「地域探究アワード」では意欲の高い高校生向けに実践活動の顕彰を行う。

1 趣 旨

高校生が地域づくりや地域の課題解決などに関する体験活動を通して、問題発見・解決能力を身に付け、新たな価値を創造する人材育成に資するとともに、それぞれの実践活動の成果や自身の成長を適切に評価し、青少年の体験活動に関する社会的な認知を高める。

2 日 程 等

(1) 期 日 令和6年7月13日(土)～7月14日(日) 1泊2日
令和6年7月21日(日) 日帰り

(2) 参加者	石川県立鶴来高等学校	第2学年	3名	第3学年	2名	
	石川県立小松商業高等学校	第3学年	1名			
	鵬学園高等学校	第1学年	2名			合計 8名

(3) 講師及び研修内容

① 講 師

[講話「あなたが考える地域づくり 地域の課題とは」]
羽咋市地域包括ケア推進室 社会福祉士 谷 智美 氏

[フィールドワーク①・②]

小規模多機能型居宅介護たきの一ほ一む風和里 羽咋高齢事業部長 森川 みなこ 氏
千里浜地区生活支援協議体「サロンおっちゃん家」代表 富山 一夫 氏

[講義・演習②]

一般社団法人まるオフィス 中高生の学びのチームコーディネーター
気仙沼学びの産官学コンソーシアムコーディネーター 社会教育士 三浦 亜美 氏

[ガイダンス、講義・演習①、③④、発表①②]

酒井 伸大 (国立能登青少年交流の家 企画指導専門職)
魚川 友康 (国立能登青少年交流の家 企画指導専門職)



② 研修内容（カリキュラム）

分野	No.	科目名	月/日	時間	探究のプロセス	主な活動内容	活動場所
導入	1	ガイダンス①-1	7/13	9:00-9:50	-	地域探究プログラムの内容・スケジュール等の確認。	交流の家 第5研修室
		ガイダンス①-2		10:00-10:50	-	各々の探究の目的、期待する自己の変容の確認と共有。	交流の家 第5研修室
	2	講話 「地域づくりの実践」	7/13	11:00-11:50	課題発見	「地域づくりの実践」の講話を聴き、今後の活動に向けて意欲を高める。	たきのーほーむ 風和里
		フィールドワーク①-1 「地域の魅力発見」		12:00-14:50		FWを通して、地域づくりに関する取組についての活動を体験し、その魅力を発見する。 (仲間づくり・生きがいづくり)	
	3	講義・演習① 「地域理解」	7/13	15:00-15:50	課題発見	情報マップ作りを通して、FW①の調査内容の全体像を把握する。	交流の家 第5研修室
	探究のプロセスの実践	4	講義・演習②-1, 3 「課題解決の基礎」	7/13	16:00-16:50 19:00-20:50	課題の設定	FWを通して問題点を明らかにし、解決策や質問を考える。
5		講義・演習②-2 「課題解決の基礎」	7/13	17:00-17:50	課題の設定	対話を通して問題点を明らかにし、解決策や質問を考える。	交流の家 第5研修室
6		フィールドワーク② 「地域課題の探究」	7/14	9:00-11:50	情報の収集	講師との意見交換や別の取組の調査を通して、より有効な解決策を考える。	たきのーほーむ 風和里 おっちゃ家
7		講義・演習③ 「地域課題の探究」	7/14	13:00-15:50	整理・分析 まとめ	調査内容や問題点の解決策をポスターに整理し、まとめる。	交流の家 第5研修室
8		発表①	7/14	16:00-16:50	表現	作成したポスターを用いて、ポスターセッションを行う。	交流の家 第5研修室
地域課題の取組	9	講義・演習④-1, 2 「行動計画の基礎」	7/21	10:00-13:50 昼食含む	課題の設定	実践活動での行動計画を作成する。	交流の家 第5研修室
	10	発表②	7/21	14:00-14:50	表現	今後の実践活動の行動計画を発表する。	交流の家 第5研修室
	11	実践活動のためのガイダンス	7/21	15:00-15:50	-	実践活動上の安全管理や社会のルール・マナーを理解する。	交流の家 第5研修室

③ フィールドワーク概要

小規模多機能型居宅介護たきのーほーむ風和里 羽咋高齢事業部長 森川 みなこ 氏
千里浜地区生活支援協議体「サロンおっちゃ家」代表 富山 一夫 氏

地域の高齢者福祉の現状や課題について、その魅力や情報を知り、自分事と捉えた目線で考え、地域の課題とその改善に向けた取組を探究する。

3 成果と課題

本事業に参加した8名の生徒から、今回のオリエンテーション合宿での学びについての振り返りをしてもらった。

(1) フィールドワークでの学びについて（生徒の感想・記述より抜粋）

- ・限界集落に近づいていることを見通し、集える場があることで町全体が活性化するのだとサロンに参加して肌で感じる事ができた。
- ・高齢者福祉についての願いや想いをお聞きし、福祉や介護に対するイメージが変わったし、ひとりひとりの生きがいを大切にすることは、自分が感じている地域課題にも共通していると気付いた。



【トークセッションの様子】

(2) 生徒のオリエンテーション合宿の学びにおける成果と課題（生徒からの聞き取り）

① 成果

- ・他校でグループを作り、異なる地域課題や取組について議論を交わしたことで、自分の考えが深まる意見をもらえたり、これまでの自分にはない新しい考えに出会ったりすることができた。
- ・課題から解決策まで筋の通ったプレゼンテーション、まとめ方、聞き手を意識した話し方は大切だと分かった。
- ・学校でクラブやグループで探究していることに、生かすことができる見方・考え方、プレゼンテーションスキルを学んだ。



【情報マップ作り】

② 課題

- ・自分の考えに自信を持ったり、考えをまとめたりする力をつける必要があることを痛感した。
- ・話す内容はまとめてから発表したが、補足が多くなり、伝えたいことがずれてしまった。
- ・もう少し積極的に質問したり感想を言ったりできるようにしたい。



【発表・質疑応答】

(3) 運営面における成果と課題

① 成果

- ・募集に当たって、石川県内の複数の学校を訪問した。結果的には3つの学校から参加者が募り、OR合宿を実施することができた。また、当日は、加賀地区の高校の先生2名が生徒とともにOR合宿に参加し、本事業についての理解を深めていただくことができた。
- ・事業全体に対する満足度は100%であり、「多様な見方・考え方に気付くことができた」「まとめ・表現する力が伸びた」という声が多く聞かれた。
- ・自らの地域課題を見つけ、解決したいという意思があるかを申込フォームで尋ねたうえで参加を承認した。そのためテーマが福祉であっても「自分だったら」と自分ごととして考える生徒が多く、担当者としても生徒の実態や考えの変容を見取ることができた。

② 課題

- ・テーマが福祉に関する内容であり、身近で自分事として考えやすかった反面、自分の地域課題と行き来しながら思考するには、展開の工夫がさらに必要だった。
- ・様々な立場の講師の考えを聞く素晴らしい機会だったが、助言をもらうあまり、その分自分の考えを持つ、まとめる時間が不足していった。講師と綿密な打合せが必要である。